

清水はやと ニュースレター KI-ZU-NA

さいたま市長
清水はやと
2026(令和8)年10月号

市民と歩み 市制25周年

「シンカ」を続けるさいたま市

さいたま市は今年、市制施行25周年という大きな節目を迎えました。この四半世紀、市民の皆さまをはじめ、地域や企業、関係団体など多くの皆さまとともに歩みを重ねながら、暮らしやすさと都市としての魅力を高め、二歩三歩着実に発展を続けてまいりました。これまで本市を支えてくださったすべての皆さまに、心から感謝申し上げます。

一方で、物価高騰が長引くなど、市民生活を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いています。本市では、国の経済対策とも連携しながら、水道基本料金の減額や子育て世帯への給付、中小企業への支援、「さいたま市みんなのアプリ」を活用した物価高対策などを迅速に実施しました。これからも、市民の皆さまが安心して日々の生活を送ることができるよう、必要な支援を着実に届けてまいります。

高くなりました。「住みたい街ランキング2026」では、大宮が2位、浦和が11位、さいたま新都心が19位となるなど、多くの方々から選ばれるまちとなっています。また、市立中学3年生の英語力は、文部科学省の調査で7回連続第1位となり、教育分野においても全国トップレベルの成果を上げています。こうした評価は、市民や事業者の皆さまとの協働・共創によって築き上げられた本市の大きな財産です。

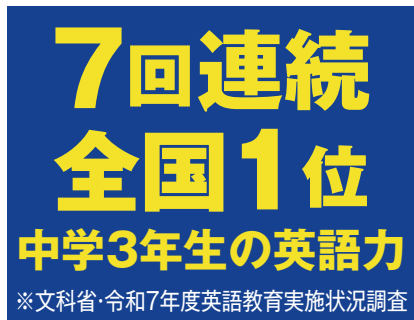
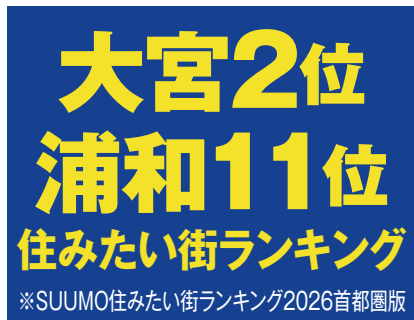
私はこれからも挑戦を続け、結果を出します。脱炭素社会の実現や行政手続きのデジタル化、防災・減災対策、子育て・教育の充実、スポーツや文化によるまちの魅力向上など、将来を見据えた投資を着実に進め、持続可能なまちづくり・地域づくりに取り組んでまいります。

市民の皆さま一人ひとりの暮らしに寄り添いながら、「住み続けたいまち」「選ばれる都市」として、本市の魅力と強みにさらに磨きをかけ、次の25年、そしてその先の未来へ向けて、新たな歩みを皆さまとともに進めてまいります。



【プロフィール】昭和37(1962)年3月生まれ。市立植水小時代はアントニオ猪木のファン、プロレスラー志望。明治学院中時代は野球部の準レギュラー。高校時代はボクシングに熱中。日本大学法学部在学中は、タイの難民キャンプや戦乱の中東へ。経験したアルバイトは10以上。「戦争と飢えをなくそう」と松下幸之助が設立した松下政経塾入塾、「運がいい男」と呼ばれる。「地域から世界を変えたい」と埼玉県議を経て、平成21(2009)年にさいたま市長就任。現在、5期目。さいたま市社会福祉協議会会長、指定都市市長会副会長、共栄大学客員教授ほか。マニフェスト大賞首長グランプリ受賞。ラーメン、スイーツ大好き。趣味はマラソン、手話ダンス、茶道。AB型。著書多数。座右の銘は「素志貫徹」。

データから見るさいたま市の魅力



5K5つの強み

令和8年度当初予算 **7,160億円**
市民生活を守り、未来へ投資する積極予算

過去最大に

一般会計は前年度比1.8%増の7160億円、全会計の予算総額は前年度比2.9%増の1兆2000億円となり、いずれも過去最大の予算規模となりました。さらに市議会6月定例会では、新庁舎整備に関する補正予算も可決。物価高騰への対応や防災・減災対策、子育て教育の充実など市民生活を支える施策とともに、「シンカの10年」に向けたまちづくりを力強く前へ進めています。

強靱 [Kyojin]

災害に強くレジリエンスなまち
被害を減らし、素早く復旧

災害から市民の命と暮らしを守るため、防災・減災対策を加速します。避難所となる学校体育館への空調設備整備を進めるほか、浸水被害を軽減する雨水対策、下水道や橋の耐震化を推進。災害対応力を備えた、安心して暮らせる都市基盤を着実に整えます。



水害を防ぐ荒川第二・第三調節池を視察

交通 [Kotsu]

未来へつながる交通ネットワーク
誰もが移動しやすく

誰もが移動しやすいまちを目指し、グリーンスローモビリティや自動運転バスの実証実験を進めています。また、地下鉄7号線延伸や核都市広域幹線道路の整備促進など、未来の成長を支える広域交通ネットワークの充実に取り組みます。



地下鉄7号線延伸の市民フォーラムに出席

教育 [Kyoiku]

子どもの可能性を育む教育都市
誰一人取り残さない

誰一人取り残さない教育を目指し、市長部局に「いじめ救済相談室」を新たに設置しました。また、小学校給食の無償化や中学校給食の物価高騰分を支援。グローバル・スタディをはじめ質の高い教育環境を確保します。



高校生によるさいたまSDGs Youthプロジェクト

環境 [Kankyo]

未来へつなぐ脱炭素社会
持続可能なまちへ

次世代型ペロブスカイト太陽電池の実装を進めるほか、ごみ発電を活用したエネルギーマネジメントを推進します。さらに、「オーガニックビレッジ宣言」の実現を通じて、環境と調和した持続可能な農業生産活動を進めます。



上小川に設置されたペロブスカイト太陽電池

健康・スポーツ [Kenko]

シニアが元気に活躍できるまち
生涯スポーツを楽しむ

誰もが生涯にわたりスポーツを楽しみ、健康で活躍できるまちを目指します。シニア世代の健康づくりを充実。芝浦工業大学との連携によるスポーツテック実証事業や地域健康増進センターとの取組を進めるほか、自転車を生かしたまちづくりも推進します。



芝浦工業大学の「(仮称)地域健康増進センター」

希望のまちへもつとシンカ！

クローズアップ
01

市民とともに もっとシンカ! 未来への投資で まちを伸ばす



埼玉高速鉄道延伸へ。事業者の回答を受け取りました

都市基盤整備プロジェクトを推進

都市の魅力と競争力をさらに高めるため、未来を見据えた都市基盤整備を進めています。地下鉄7号線延伸や新庁舎整備など、市民生活の向上と持続可能なまちづくりにつながるプロジェクトを力強く推進します。

地下鉄7号線 延伸実現に向け本格始動 中間駅周辺のまちづくりと一体的に

地下鉄7号線延伸は、さいたま市の未来を切り拓く重要プロジェクトです。令和8年6月30日には、埼玉県の大野元裕知事とともに鉄道事業者から事業実施要請への回答を受け、事業は新たなステージへ。今後は都市計画決定に向けた環境影響評価を着実かつスピード感を持って進め、早期実現を目指します。

中間駅周辺では約120ヘクタールを対象に、約1万人の定住人口を見込む新たなまちづくりを進めます。豊かなみどりを生かしながら、先端技術を取り入れた未来志向の都市空間を創出し、核都市広域幹線道路との相乗効果によって、市東部地域のさらなる成長・発展につなげます。

未来への投資として、市民生活の利便性向上と本市全体の持続的な成長を力強く牽引する事業として粘り強く取り組んでまいります。



延伸の概要はこちら ▶

延伸で期待される効果

定住人口

約**1**万人

経済波及効果

約**7,700**億円
(開業15年後までの累計)

対象面積

約**120**ha

税収効果

約**1,000**億円
(開業36年後までの累計)

新庁舎整備 防災と交流の拠点に

新庁舎整備は、防災・災害対応の強化と行政サービスの向上を実現する、市政の重要プロジェクトです。令和8年4月に基本設計が完了し、市議会6月定例会では実施設計と建設工事発注に関する予算が可決されました。新庁舎は防災中枢拠点としての役割を担うとともに、市民に開かれた交流拠点として整備を進めます。

特に注目いただきたいのが「市民広場」です。屋内外に3カ所設け、芝生でくつろいだりイベントを楽しんだり、日常的に人が集い交流できる空間をつくります。災害時は一時避難スペースとして利用でき、7日分の備蓄を備えます。脱炭素など環境にも配慮し、見た目にも緑の多い庁舎としています。未来のさいたま市を支える新たなシンボルにご期待ください。

新庁舎整備等基本計画はこちら ▶



タウンミーティングで市民と対話



さいたま市の「食育」に高い評価



金子恭之国土交通大臣に要望書



岩槻諏訪公園の雨水貯留施設を視察



大阪・関西万博に出展



ヌッパーク(三室中央公園)オープン



さいたまスポーツフェスティバル 2026



全区役所に「書かない窓口」



小川麻希さんとお届けします

FM NACK5
「清水はやと
PROGRESS SATURDAY」

毎週土曜日 7:10~7:20
知識・感性が豊かになる情報番組

希望のまちへもっとシンカ!

クローズアップ
02

人への投資で暮らしを支える

次代を担う子どもたちの成長を支えること、そして誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられること。その両方を大切にしながら、一人ひとりに寄り添うまちづくりを進めています。

十人十色の学び支援 教育環境をさらに充実



今年4月、学びの多様化学校「いろどり学園小学部・中学部」が開校しました。一人ひとりの個性や状況に応じた新しい学びの場として、対面とオンラインの両面から多様な教育ニーズに応えていきます。また、市内105校目となる大和田小学校も開校し、児童数の増加に対応した教育環境の充実を図りました。子どもたちが安心して学び、自らの可能性を伸ばせる居場所づくりを進めています。



子ども真ん中!いろどり学園



大和田小は教室と廊下が一体の開放型校舎

移動支援でシニアが 安心して暮らせる地域へ



住み慣れた地域でいつまでも元気に暮らしたい。そのためには「移動の足」の確保が欠かせません。本市では、企業と連携した移動販売車「うえたん号」の運行による買い物支援、自治会と協働した小型電動車「グリーンスローモビリティ」の実証実験など、地域の実情に応じた移動支援を進めています。買い物や通院などの日常生活を支え、特にシニア世代が安心して暮らし続けられる地域づくりを推進します。



移動販売車で買い物支援



乗り合い電動車の実証実験



編集・発行／ **勇政会** (清水はやと後援会) 〒337-0051 さいたま市見沼区東大宮7-70-3-1F
[清水はやと ホームページ] www.shimizu-hayato.jp Email: s-hayato@shimizu-hayato.jp



Facebook



Instagram



You Tube



LINE

討議資料